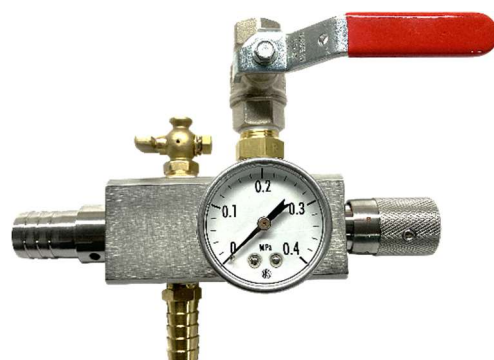


自動希釈バルブ

エアーも電気も使用せず、バルブを開くだけで希釈液を作ることができます！

**KS-ADV2/ADV2S/ADV2D/
ADV2P/ADV2P-60L**



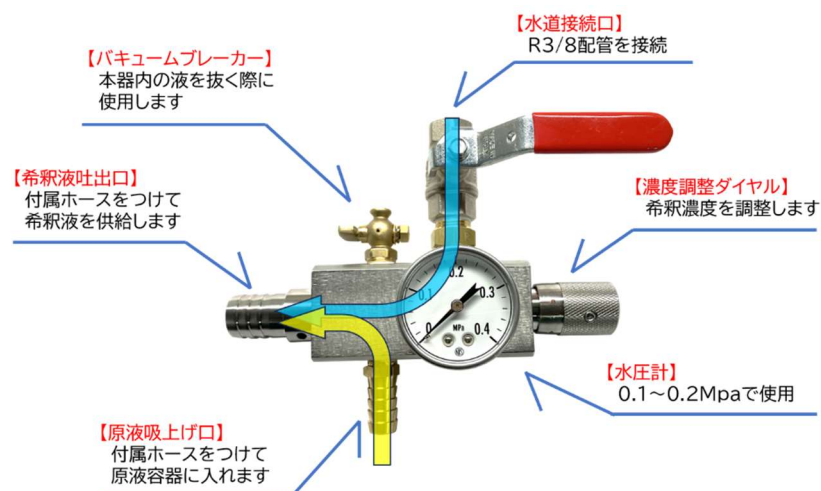
水の流速で負圧を発生させて原液を吸い上げ、連続的に一定割合で水と原液を混合して希釈液を作ります。

【特徴】

- 圧力 0.1Mpa 以上の水が供給できればどこでも使用することができます。
- 混合比は 0～35%の高性能で正確な調整が出来ます。(但し、油の成分により変動します。)
- 希釈作業者の負担を軽減することができ、均一な希釈濃度を保つことができます。
- ペール缶・一斗缶・ドラム缶に取付けすることができます。
- 原液缶を入れ替える手間がなく、残量がひとめでわかる原液ポリタンク付きタイプもご用意。

【処理能力】

18 L/min



【付属品】*

- ・放水ホース： 外径 26mm×内径 19mm 2m
- ・ホースバンド： スチール 22～30 1ヶ
- ・吸上ホース： 外径 18mm×内径 12mm 2m
- ・ホースバンド： SUS 13～19 2ヶ
- ・フットチャッキ弁： 1ヶ

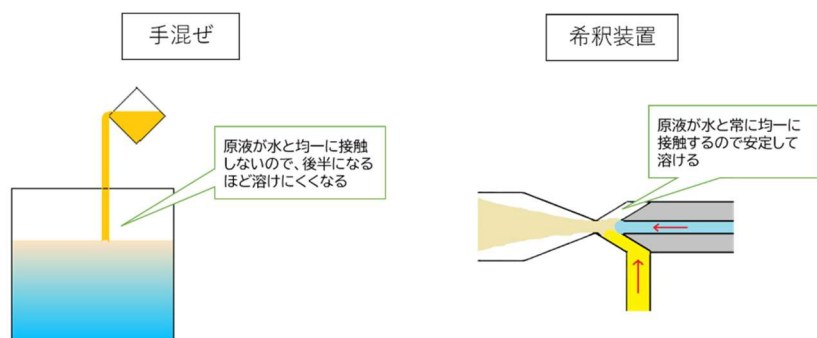
*KS-ADV2P の場合、組立済みのため各付属品は本体に含まれています。

ラインナップ

KS-ADV2	KS-ADV2S	KS-ADV2D	KS-ADV2P	KS-ADV2P-60L
鉄配管や壁に取付用	ペール缶・一斗缶用 *口金サイズ B40 のみ	ドラム缶用	原液ポリタンク付 容量30L	原液ポリタンク付 容量60L
				

【溶け切らない原液残りが発生しにくい】

自動希釈バルブのメリットは作業の効率化だけではありません。切削液等を手混ぜで希釈する際、溶け切らない原液が浮上油になることはありませんか？原液は水に触れた瞬間が最も溶けやすいのですが、手混ぜの場合どうしても希釈液に原液が触れるようになります。自動希釈バルブは常に同じ割合で連続的に原液と水が合わさりますので、原液が混ざりやすく希釈がスムーズに行われます。



【原液ポリタンク付 KS-ADV2P】

パール缶や一斗缶に取付けするのは一見簡単そうですが、以下のようなデメリットがあります。

- 残量がひとめでわからないので、使用する際に毎回確認しなくてはならない。
- 缶が空になると付け替えの作業があり、手間がかかる。

自動希釈バルブと原液を入れるポリタンクが一体となった KS-ADV2P なら原液の残量がひとめでわかります。また原液を補充していただくだけでですので、本体の付け替えの手間もありません。パール缶から移し替えるのが面倒と思われるかもしれませんが、容量が30L、60L と大きく灯油ポンプを使えば簡単に補充できます。(以下の QR コードからケイエステックのホームページで解説動画をご覧くださいませ。)

KS-ADV2P (30L)



KS-ADV2P-60L (60L)



またポリタンク仕様の場合、オプションで下限フロートスイッチを追加することもできます。さらに自動化を追求したソルマスターシリーズもありますので、こちらもケイエステックのホームページをご覧ください。

取扱説明書・各製品の外形寸法図はこちらの QR コードからケイエステックのホームページでダウンロードできます。パール缶の移し替え作業動画・ソルマスターもこちら。



【製造元】

KST 株式会社ケイエステック

〒666-0025 兵庫県川西市加茂 6 丁目 110-4

TEL:072-755-1675 FAX:050-3588-0262